

令和7年度東京都立国分寺高等学校 学校経営報告

学校運営における各分掌・学年・教科の「取組状況と数値結果」と「評価」

評価A：90%以上の達成度 評価B：70%以上 評価C：70%未満

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 習 指 導	① 現役で難関国立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等の進学実現に必要なとされる学習の質と量を確保する。 ・長期休業日の弾力的運用と土曜授業により年間の総時数【1000】単位時間を確保する。 ・長期休業期間における補習・講習を全学年で実施し、【150】講座以上設置する。 ② 本校のグランドデザインを基に編成した、新教育課程を適正に実施する。 ・2年次まで文理共通履修とした令和4年度入学生（54期生）以降の新教育課程の適正な実施と検証を行う。 ③ 総合的な探究の時間の充実を図る。 ・1年次から3年次までの総合的な探究の時間の指導を探究部の主導のもと計画的・系統的に実施し、生徒の思考力・判断力を伸ばすとともに、自ら課題を設定し、その課題解決を図る力を醸成する。 ④ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校として、文理融合による探究活動及び教科等横断的な学習の充実を図る。 ・探究部及びSSH推進委員会を中心に校内体制を構築し、今後4年間は、全校体制で取組計画の通りに実施する。 ・文理を融合し、科学的な関心と思考力を高める課題解決型学習の開発に関する実践的研究を行う。 ★ 上記③総合的な探究の時間や上記④理数に係る探究活動の成果を活用し、大学入学者選抜に挑戦する生徒を増やす。 ⑤ 高い水準の授業実施・確保のため、学力スタンダードの活用等、工夫してカリキュラム・マネジメントを実施し、学校として組織的に授業力・指導力向上、学力向上に取り組む。	A	<国語> ① 1年次の読解力・表現力向上を目指し、漢字年間【20】回等、計画的組織的に実施した。 新書と小説等を読み、要旨や感想をまとめたものの提出を年【5】回行った。また、新書と新聞記事を資料として意見文を書き、発表した。 文章を多く読ませ、応用演習問題集に計画的に取り組ませ、文法小テストを年【5】回行った。 2年次、漢字テスト年【20】回を年間計画で実施し、語彙力、応用力を伸ばした。 古語テストを年【12】回、句法テストを年間【5】回実施した。文法小テストを年間【5】回実施した。 3年次、現代文の読解演習問題に定期的に取り組み、活用した。年【12】回。 基礎基本を単語、句法テスト年【15】回で確認しながら、古文・漢文問題演習を計画的に実施し（年【30】回）、総合力を伸ばした。 <地理歴史・公民> ① 現役で難関国公立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等への進学実現を可能にするため、長期休業期間を中心とした補習・講習を全学年で実施し、【20】講座以上設置した。 ② それぞれの科目において、探究型の授業実践など、新教育課程を適正に実施した。 <数学> ④ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校としてSSH推進委員会を中心に、理数に係る探究活動等において探究プロセスを主体的に行う取組を確立するとともに、数学、理科、情報などの教科等横断的な学習方法、指導方法及び評価方法等の研究開発に取り組んだ。また、各学年に応じた統計教育を推進した。 ⑦ 実力テストの結果分析を行う。特に分野ごとの分析を行い、日頃の授業に反映させる、講習を企画するなど、日頃の指導に生かして苦手分野を克服させるよう努めた。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 習 指 導	⑥ 毎時間「予習・復習を前提とした授業」、「学習目標が明確に提示され、達成度が確認される授業」、「チャイムで始まりチャイムで終わる授業」等、質・密度の高い計画された授業を全員が実施する。 ⑦ 実力テスト毎に各教科会で分析を実施し、分析結果を日々の学習指導に反映させる。 ⑧ データ等を活用し、必要な指導を確実に実施しながら、入学時の学力の維持・向上を基本目標に全教職員が一つのチームとして取り組む。 ⑨ GE-NET EE 指定校として、として、生徒の使える英語力の向上を図るため、特に「聞く」、「話す」に重点を置きながら英語の4技能をバランスよく育成するため、きめ細かい指導を行う。 ⑩ グローバル人材の育成に向け、オーストラリア語学研修による国際交流活動等、多様な学習の機会を通し、学校全体で組織的・計画的に実践する。 ⑪ 各教科の授業だけでなく、部活動及び行事等の教育活動全般を通して、オリンピック・パラリンピック教育について、「学校2020レガシー」として設定し、適切に実施する。 ⑫ デジタルを活用した教育の充実のため、生徒一人1台端末の導入に伴い、端末を十分に活用できる学習活動を計画し、実施する。		<理科> ④ 理数探究において他教科との連携を図りながら適正に実施した。また、全ての科目において、探究的な視点を意識した授業を行った。 (物理) ① 3年生の11月までに教科書を終え、12月以降大学入試共通テスト対策の問題演習・解説を行い、生徒の希望進路実現のため、基礎学力の充実と応用力を確立させた。 (化学) ① 3年生では、大学入試共通テスト対策の演習を10回以上行った。さらに、個別学力試験に対応した演習を行い、得点力のアップを目指した。大学入試共通テストでは、全国平均点プラス18%の校内平均点を達成した。 (生物) ① 3年生の11月までに教科書を終え、12月以降大学入試共通テスト対策の問題演習・解説を行い、生徒の希望進路実現のため、基礎学力の充実と応用力を確立させた。 <保健体育> ⑪ 1年保健において、オリンピックやパラリンピックの起源や成り立ち、精神について学習した。 ⑫ 保健の授業において、自らの健康や生活に関わる内容で、特に実験や実習を中心に授業の展開を実施した。2年次ではICT機器や個人端末を活用し研究発表を実施し、他教科と連携した発表会を3月に実施した。1年次では個人端末を活用し2年次の研究発表に向けたグループ学習や調べ学習等を実施した。 <芸術> ①②③ 授業の中でテストを実施、もしくは作品提出による評価を行った。教科会を年10回以上開くことで、芸術科の取り組みや課題、評価について共通理解を持ち、生徒の実態を踏まえた学力向上に向けて検討し取り組んだ。 <英語> ② 従来の教育課程からの変更を受け指導内容を充実させた。特に「論理・表現Ⅲ」及び「英語コミュニケーションⅢ」の展開を適正に実施した。生徒がそれぞれの授業で身に付けた語彙・文法・長文読解の力を、論理的に自分の考えをまとめ、表現する力へと発展させられるよう授業構成を

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 習 指 導	(前ページ続き)		工夫した。 ⑨ GE-NET EE 指定校として、4技能を統合的に活用した言語活動の展開を促進した。また、英検等の外部試験を適切に活用し、進学指導に活用した。 ⑩ オーストラリア姉妹校との交流活動の機会を設け、21世紀の国際社会に貢献できるコミュニケーション能力と人格的素養の基礎固めを図った。 <家庭> ① 将来自立した社会人を目指し、主体的に考え取り組める授業内容にできるよう進めた。課題提出に関しては全員提出を目指したが、期限通りにはいかない生徒もいた。期限を延ばし大きな課題は全員提出させた。 ② 実習室の環境を整えながら感染対策をきちんと行い、ミシン実習6時間+放課後・調理実習3回を実施した。 <情報> ①② 授業や講習等において、国公立大学への進学を目標とし、共通テストを意識した授業展開を行った。長期休業期間に【4講座】程度の講習を実施した。 ③⑫ 適切に情報を扱い、課題解決を図る力を醸成した。「情報Ⅰ」の授業において【80%】程度一人1台端末を使用し、探究活動はじめ他教科の学びに役立てた。 《教務》 ② 2年次までの文理共通履修の令和4年度入学生（54期生）以降の新教育課程の実施について、その検証を継続している。 ④ SS 探究部及びSSH推進委員会を中心に、理数に係る探究活動等において探究プロセスを主体的に行う取組を確立するとともに、数学、理科、情報などの教科等横断的な学習方法、指導方法及び評価方法等の研究開発に取り組んだ。 ⑤ 年間授業時数1000単位時間の確保を目標とし、小テストや課題等をバランスよく実施し、基礎学力の定着を図り、学習目標の達成状況を各教科で検証した。 ⑩ グローバル人材の育成のため、「次世代リーダー育成道場」をはじめとする海外留学等に関する広報とともに、留学経験者の報告会や個別相

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 習 指 導	(前ページ続き)		談体制を充実させた。 ⑫ デジタルを活用した教育の充実のため、生徒一人1台端末の授業での利活用を促進した。教員・生徒双方がオンライン学習を円滑に実施し学びを継続できるよう、6月に「オンライン学習デー」を実施した。 《生活指導》 ⑪ 行事の企画・運営や部活動における大会参加・運営等を通して、スポーツの社会的意義などについて考える機会を設けるなど、オリンピック・パラリンピックに関する教育を推進した。 《進路指導》 ① 長期休業日の弾力的運用と土曜授業により年間の総時数【1000】単位時間を確保した。 長期休業期間における補習・講習を全学年で実施し、【144】講座設置した。 ⑦ 実力テストの結果分析を行った。54期までの卒業生のデータを参考に各学年の学力分析を行い、担任団や教科の指導に生かせるような情報提供を行う。新学習指導要領適用学年の指導に関しては情報収集等を通して計画的に行う。 また、各学年の実力テストの定点観測を行い、過去回との比較・各学年の過去学年との比較を行い、分析した。分析会への参加を求め、教職員相互での意見交換を行った。 《SS探究》 ③ 1年次から3年次までの総合的な探究の時間を計画的かつ系統的に指導し生徒の思考力・判断力を伸ばすとともに自ら課題を設定し、その課題解決を図る力をつけるよう計画通り進めた。 1年次の「総合的な探究の時間」における「人間と社会・体験活動」を企画した。東京都の自立支援プログラムを利用した情報収集プログラムとプレゼンテーションプログラムを実施した。 また、探究活動においては社団法人SFCフォーラムと連携をして論理コミュニケーション公式シラバスを実施し、グループ探究に生かした。 2年次の「総合的な探究の時間」では、探究活動を実施する。前半はグループ探究を実施し、後半及び3年次の個人探究につなげていく取り組みを実施した前半のグループ探究はポスター発表を行った。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
	(前ページ続き)		3年次では「総合的な探究の時間」における探究活動を企画し個人探究の仕上げを行った。探究活動によって生徒が自身の可能性を発見し、進学意欲の向上にもつながられるよう全教員で探究活動を支援し、個人探究論文を全員提出した。 ④ SSH (スーパーサイエンスハイスクール) 委員会及び探究部を中心に、5年間を見通した校内体制を構築し、生徒が主体的に行っていける取組の確立を目指す。理系科目だけでなく文系の教科との横断的な学習方法、指導方法及び評価方法等の研究開発 (文理融合型) に取り組む。 ③・④ 探究活動の成果を活かし、5人以上大学入学選抜に挑戦させた。
進路指導	① 難関国立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等をはじめ、進学希望大学への現役合格を目指す。 ・共通テスト6教科受験者数を【180】名以上。 ・共通テスト6教科8科目の総合得点8割を【10】名以上。 ・旧帝大を含む難関国立大・医学部現役合格【15】名以上 上記大学を含め、国公立大現役合格【100】名以上。 ・難関私立大等現役合格【80】名以上。 ② 統一のとれた組織的な進路指導を実施する。 ・学校として指導する進路指導の内容等、基本的なことは進路指導部が進路シラバスにまとめ、全体の進行管理や検証を行う。データを活用した組織的で計画的で確かな進路指導を推進する。 ・進路指導部と学年・教科等の連携強化を図り、全教職員が課題発見に努め、常に全員で課題に正対し、的確に解決しながら進路指導に取り組む。	A	《進路指導》 ① 難関国立大学・難関私立大学への現役合格達成可能な生徒の抽出と第一志望貫徹を助言した。1学年からの学力テストの結果分析を行い、難関国公立大学への現役合格が可能である生徒へ受験を勧め、受験者数の増加を目指す。国立大学の教育環境の良さを低学年にも知らせ、保護者会等の機会に保護者へも知らせた。地方を含めた国公立大学の情報を生徒・保護者に提供する。基本的には生徒本人の志望を高く、さらに向上していこうとする意欲をもたせる指導を優先させ、生徒個々の志望にそった進路指導を実施した。 ・共通テストフル型受験者数【147】名 ・共通テストフル型受験者得点8割以上【15】名 ・旧帝大を含む難関国立大・医学部現役合格【12】名 上記大学を含め、国公立大現役合格【91】名 ・難関私立大等現役合格【82】名 ② 実力テストを組織的に実施した。各学年での実施形態を廃し、学校として統一のとれた実施をおこなった。各学年における実力テストの目的を明示した。進路指導部は学年との連携を図りながら、学力テストが生徒の学力向上に効果的に機能するよう、データ分析等、担任が個別指導をしやすい環境を整えた。 ③ 「学力分析会 (全体会)」を各学期に実施し、分析結果を日々の学習指導・進路指導に反映させた。保護者会・三者面談・進路便りを活用し、生徒・保護者の意識改善を図り、安易に流れることのない、生徒の可能性を伸張させる指導を全

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
進路指導	③ 生徒の可能性を最大限生かす指導を全員で継続的に行う。 ・「入れる大学ではなく、入りたい大学への合格の支援」、「最後まで第一志望をあきらめさせない指導」を実現させるため、生徒個々の進路希望や学力の実態についての情報を、学年・進路指導部・各教科及び全教員で共有し、具体的で個別的な指導につなげる。 ・「学力分析会（全体会）」を各学期に実施し、分析結果を日々の進路指導に反映させる。 ・保護者会・三者面談・進路便りを活用し、生徒・保護者の意識改善を図り、安易に流れることのない、生徒の可能性を伸張させる指導を全教員が行う。 ④ 進路実現に必要な自律的に学ぶ力の育成・向上、学習習慣確立等のため、適切な課題の継続的な学習や自分に必要な学習を自ら行うことができる力の向上等に必要指導を具体的に実施する。 定期的に調査等を実施し、面談等で繰り返し指導する。また、部活動顧問等からも指導する。 ・家庭学習時間は、以下の時間を目標とする。 高1：平日3時間、休日4時間 高2前半：平日3時間、休日5時間 高2後半：平日4時間、休日6時間 高3：平日5時間、休日8時間		教員が行った。 ④ 特に2学年は、1学年より家庭学習時間が減る傾向にあるため、担任団と協力し、適宜指導を行った。 《1学年》 予習・授業・復習の学習習慣を確立し、「学年＋2時間」の自主学習習慣を身に付けられるよう指導した。模試の結果を分析し、学年集会等の指導に活用した。 目標を高く設定するとともに、選択肢を広げられるよう、得意・不得意にかかわらずすべての教科に一生懸命取り組むよう指導した。 《2学年》 予習・授業・復習の学習習慣を確立し、「学年＋2時間」の自主学習習慣を身に付けられるよう指導した。各教科で模試の結果を分析し、生徒に還元する学年集会を年間で【4】回行った。 また、模試の分析や冬期集中セミナー等を活用し、3年次選択科目を決定するためにも、目標とする第一志望校が明確に設定できるよう指導した。現在【200】名以上の生徒が国公立大学を第一志望としている。 《3学年》 年間【9】回の模擬試験を校内全員対象で実施。模擬試験に対する事前・事後指導を通じ、進路実現に資する学力の向上に努めた。 個人面談（三者面談）を実施し、家庭とも連携をして、生徒の進路希望実現を図った。 ＜国語＞ ① 長期休業中の講習を年間【30】日以上行った。入試分析を高校3年間の学習指導に具体的に生かした。 ② 国語科全体として、指導資料や指導法等に関して、授業参観や教科研修会、模試分析などをおして、情報交換しお互いに協力した。 ＜地理歴史・公民＞ ① 大学入学共通テストにおいて、各科目とも全国平均点【＋20％】以上を達成した。 ② 進路指導部と連携を図り、進学希望大学への現役合格を支援した。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
進 路 指 導	(前ページ続き)		<数学> ① 令和7年度共通テストの分析に基づき、今までの対策を見直し、文章読解に重点を置いた演習を工夫した。 共通テスト受験者全員に、11月から問題集を用いた実践演習を行った。 <理科> ① 現役で難関国公立大学等を含めた国公立大学や難関私立大学等への進学実現を可能にするため、長期休業期間を中心とした補習・講習を実施した。 <保健体育> ④ 体育系学部志望者には共通テスト後の1か月間実技試験に向けた技術指導等を行い、進路実現をサポートした。 <芸術> ④ 芸術系学部志望者には実技試験に向けた技術指導等を行い、進路実現をサポートした。 <英語> ③ レッスン毎の授業内容打ち合わせを含め、生徒の学習状況について情報共有を科内でこまめに行い、具体的で個別的な指導につなげた。長期休業中には生徒の進路希望や学習状況に寄り添った講習や補習授業を実施した。 ④ 基礎学力と学習習慣の確立を重視しながら、適切な課題の継続的な学習機会を用意した。1・2年次には年間数冊の副読本を読ませ、3年次には受験対応の長文問題を中心に読解演習を行った。 <家庭> ④ 少数ではあるが家政系や家庭科教員を目指す生徒に関して、推薦入試論文対策は早めにスタートさせた。一般入試に関してはもう少し早めにスタートさせるよう努力したい。 <情報> ④ 共通テストを前提に、現役で難関国立大学等を含めた国公立大学の進学実現するために教科書レベル発展レベルを身に付けさせた。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
生 活 指 導	① あらゆる教育活動を通じて、全ての教員がぶれることなく、「当たり前にするべきこと」を「当たり前のこと」として徹底して指導し、基本的な生活習慣を確立させる。 ② 高い社会規範意識の涵養を図り、自他を認め、互いに尊重する人間尊重の精神と規範意識を育む。 ③ 交通ルールを守り、自転車事故【ゼロ】を達成するとともに、他者への挨拶や礼儀を重んじ他者に優しい態度を育成して地域の共生を図る。	B	《生活指導》 ① 自由な校風や木もれ陽祭の華やかな雰囲気にあこがれて入学した生徒が多く、規範意識の欠如や周囲への配慮に欠けた自己満足的な行動がみられることがある。様々な活動を通して、基本的な生活習慣の確立、周囲に配慮して行動する態度の育成を図ることができた。 木もれ陽祭全体の企画・運営については、木もれ陽祭運営委員会の位置づけを明確にし、これを中心とした運営体制を今後継承しうるものとして確立した。教員、各実行委員会、団チア会との連携を深めた。また、次世代の運営委員の中心となる一年生への継承、育成を考慮した組織作りを行うことができた。継承すべき伝統やこれからの国分寺高校にとってふさわしい価値観とは何かを構想し、これに則った木もれ陽祭を創ることを目指すことができた。 合唱祭、文化祭、体育祭、においては、より一層生徒の創造力が発揮され、達成感を得られるようなものとするための具体的な改善を進めてた。 ・合唱祭 自由曲の充実、逐次運営分担、審査体制を見直した。 ・文化祭 飲食団体や舞台設置などの指導のあり方、受付・警備などの体制を見直した。 ・体育祭 係分担の連携、リハーサルなどスムーズな運営体制を確立させる。体調管理に十分留意して企画・運営を進めることができた。 ・中夜祭 木もれ陽祭における位置づけを明確にし、生徒の体調管理にも十分配慮して企画・運営することができた。 ② ホームルーム活動、部活動などの自主的な活動の機会を活用し、他者の立場や意見を尊重する態度の育成を図った。またセーフティ教室などの機会を利用し、SNSの適正な利用など、人権意識・規範意識の向上を図ることができた。 ③ 駅方面からの自転車登校生徒が多く、道幅は狭く自動車や通勤自転車・歩行者、通学児童が多数交錯している状況である。このため、今年度も自転車による事故・周辺住民からの苦情が多く寄せられた。自転車損害賠償保険への加入、交通安全指導の徹底、ヘルメットの着用率向上のための取り組みを進めた。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
生 活 指 導	(前ページ続き)		部・同好会連絡協議会を通じての自転車マナーの徹底や生活委員会による交通安全教室など、生徒による自律的な活動を活性化することができた。 《1学次》 部活動・生徒会活動などに積極的に取り組みつつ、学業との両立が確立できるよう継続的に指導した。 学年集会を活用して、遅刻0、自転車事故0の指導を行い、遅刻の多いものに対しては追加の指導も実施した。 計画的に木もれ陽祭等の学校行事が進められるよう、クラス全体で取り組ませることができた。 《2学次》 学校行事において中心となる学年であるから、各方面でリーダーシップを取り、また、そのリーダーを支えられる行動が取れるよう働きかけた。 学年集会等を通じ、自者目線だけでなく他者目線で物事を見ることができるよう指導し、規範意識を高めた。 学校行事・部活動の安全な実施に協力し、生徒の自主的な活動を支援した。 《3学次》 日々の授業を大切にする指導を徹底する。生徒が協働して学習・学校行事に取り組む態度を育成し、生徒各自に課題に真剣に向き合えるよう、指導した。 生徒各自が時間の有意義な使い方を考えられるよう指導する。逆算して自分の計画を作る自律的行動を奨励した。
特 別 活 動	① すべての土台となる健全な主体性と自律的な生活管理能力の育成、学校のルールに基づいた特別活動、部活動の推進・充実を図る。 ② 部活動保護者会を適宜実施し、保護者と顧問の連携を深め、生徒の主体的活動を支援する。 ③ 経営企画室との連携のもと、部費を適正に執行・管理する。	A	《生活指導》 ① 部活動は盛んであり、朝練・昼練にも熱心に取り組む生徒が多い。しかし、しばしば公共性の意識の低下が見られ、下校時間の乱れ、部室・活動場所・更衣室等の私物化、清掃状況の低下・ごみの放置等の問題を抱えている。特別活動・部活動を通して自律的な生活管理能力を育成することができた。 ② 各部において部活動保護者会を実施し、部活動年間活動計画に基づき、安全管理に配慮した上で主体的活動を支援することができた。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
	④ 都立学校における部活動改革パイロット校として、教員の働き方改革と生徒の豊かな活動の実現に向け、その取組みの成果を検証する。 (前ページ続き)		③ 各学期において、現金出納簿の管理と預金通帳の確認を行う。経営企画室とともに、生徒会費の適切な運用を目指し、年間で会計に係る事故をゼロにすることができた。 ④ 顧問の負担軽減を図りつつも、生徒の満足感・達成感、対会等における結果など十分な成果を上げられるよう、外部との連携のあり方を検証した。
健康づくり	① 全教職員により、日常のあらゆる教育活動において生徒の様子を観察し、情報の共有と迅速な対応を行うことで、いじめの早期発見や自殺予防に全力で取り組む。 ② スクールカウンセラーと連携し、教育相談委員会を定例開催するとともに、発達障害等を含め、個別に支援が必要な生徒については、全教員で情報を共有し、きめ細かい指導を実施する。 ③ 基本的生活習慣の定着と授業、部活動、行事等で体力向上及び健康の保持増進に向けた取組を充実させ、体力テストにおける全国項目で全国平均値以上を達成する。	A	《保健環境》 ① 各定期考査の時期において、生徒に関するアンケートを全教員に実施する。少しでも気になる生徒の情報を提供してもらい、各学年会で共有。その後保健室およびスクールカウンセラーにも情報を提供することで、迅速な生徒対応を行う。スクールカウンセラーの出勤日には職員室に常駐してもらい、教員がいつでも気軽に相談ができる体制を継続できた。 感染症対策を生徒自らが実践するために、各委員会で主体的に取り組んだ。 ② 担任・スクールカウンセラーとの連携を高め、また、年5回の教育相談委員会により支援の必要な生徒の把握と課題解決を図る。その情報を教員間で共有するために、職員会議や共有フォルダ等を活用して、情報の周知を行うとともに、課題の改善に努めた。 ③ 木もれ陽祭や球技大会において、救急車を呼ぶ事故を0にするべく、計画段階から指導を行った結果、救急車を呼ぶ事態にはならなかった。 《生活指導》 ①② 日頃から担任・スクールカウンセラーとの連絡を密にするとともに、年5回の教育相談委員会・拡大生活指導部会も活用して、問題のある生徒を早期に把握し、組織的に問題解決に当る体制と整え、その情報を教員間で共有するため、職員会議や共有フォルダ等を活用して、情報の周知を行うことができた。 ＜保健体育＞ ③ 体育の目標に「全力・スピード・働きかけ」を掲げ、集団への働きかけを重視し、課題解決にむけての取り組み、人間関係の円滑化やリーダーを育成した。また準備運動で筋力トレーニング・コーディネーショントレーニング・柔軟体操・ランニングを実施した。体力テストの平均数値は東京都で上位に位置することができた。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
募集・広報活動	① ホームページのリニューアルに伴い、概ね毎週1回以上更新し、本校のあらゆる教育活動を発信する。学校案内についても、より本校の魅力を掲載できるように内容の見直し等を行う。 ② 学校説明会・学校見学会、塾対象説明会、入学相談会等の内容を工夫するとともに、都立高校PR事業と連携しながら募集・広報活動を積極的に実施する。	A	《総務》 ① ホームページの更新を週1回は行い、直近の教育活動を広報できるようにした。また、総務部だけでなく部活動などが作成する動画を本校ホームページなどにあげていくことにより、本校の進学実績や活発な部活動、生徒の自主性に富んだ学校生活をアピールしていく。昨年度刷新した学校案内のさらなる改訂を行った。 ② SS 探究部作成のSSH 通信を学校説明会等で広報した。塾対象説明会を7月に本校で実施した。自校作成問題説明会を外部会場を借りて実施した。都立高校 EXPO でも参加都立高校屈指の来場者を数えた。本校主催の広報活動では、年間で【5000】名以上の来場者があった。
学校経営・組織体制	① 教科会を年10回以上実施し、教科ごとに設定した目標値を指標とした定点観測等を行い、教科として組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に自律的、戦略的に取り組む。 指標：(1)家庭学習時間、(2)授業評価の肯定的評価の割合、(3)共通テスト全国平均点上回り率、(4)共通テスト得点8割以上の人数、(5)模試等の平均点偏差値、(6)模試等の偏差値の通減率、(7)模試等の偏差値の分布率の変化等 ② 考查問題のラベリング化、CAN-DO リストの活用等を実践し、継続的に生徒の学力達成度を確実に把握し、各生徒の学力状況に応じた指導を的確に行う等、教科として組織的、計画的に学力向上に向けて取り組む。 ③ 教科会、学年等で検討する課題や資料等の作成・提供、教科単位の学力分析会や研修会の実施等の進行管理等は、学力向上委員会が行い、生徒の学力向上及び授業力向上に向けて組織的に取り組む。 ④ 教員の相互授業参観【年3回以上】等、OJTを推進する。誰でもいつでも授業研究等ができる環境を整備する。 ⑤ 学校における働き方改革及びライフ・	A	<国語> ① 教科会を年10回以上実施し、科目ごとに設定した目標を定期的に点検し、組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。 <地理歴史・公民> ① 教科会を年【10】回以上実施し、科目ごとに設定した目標を定期的に相互点検し、組織的かつ計画的に授業・テスト問題等の改善を行った。科会開催時に定期テストや模擬試験の分析をおこない、それを各科目の指導にどう反映させていくのかを検討した。 ② 生徒の学力向上には授業改善が不可欠であると考え、他校の研究授業や予備校の研修会に積極的に参加し、その成果は科会を通じて共有した。 <数学> ① 教科会を年10回実施し、科目ごとに設定した目標を定期的に点検し、組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。 ② 共通テストに対応した出題形式を研究し、考查問題の作成・実施をした。毎回の模試において分野ごとの学力達成度を確実に把握し、生徒の学力向上に向けて、教科として組織的、計画的に取り組んだ。 ③ 教科会で検討する課題や資料等を作成し、教科としての課題を共有した。 <理科> 教科会を年【10】回以上実施し、科目ごとに設

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	ワーク・バランスを効果的に推進する ・教職員の提言を生かしながら、各種会議の効率化や定時退庁の奨励や長期休業日等に閉庁日又は閉庁時間等を設定し、ライフ・ワーク・バランスを実施する。 定時外在校時間一人平均で【月に30時間以内】 ⑥ 経営企画室の主体的な経営参画と全教職員の共通理解による事務処理の効率化を図る。 ・経営企画型の事務業務への転換をめざし業務内容を見直し、企画調整会議で検討し教員、事務職員の意識改革を図る。 経営企画室の各担当業務のマニュアル作成等、業務の効率化・円滑化・組織化を図る。 ⑦ 個人情報情報の適正な管理をはじめ、服務事故の防止に努める。 ・執務環境の整理整頓、クリーンデスクを心がける等、日頃から個人情報保護への危機管理意識をもつ。 ・人権尊重の視点に立った教育活動を推進し、体罰及び不適切な指導等を行わない環境を作るとともに、服務研修の計画的な実施により健全な職場環境を維持する。 ⑧ 日常の授業での利用及び進路指導部と連携した進路指導での利用を促進し、図書館の利用率の向上に取り組む。 ⑨ 日常的教育活動において、新型コロナウイルス等に対する感染症対策に万全を期しながら、生徒の学習活動、部活動、特別活動の充実を図る。 (前ページ続き) ⑩ 学力向上委員会及びICT委員会を中心に、いつでも全教員がオンライン学習を実施できる体制を整え、生徒の学習活動を支援する。		定した目標を定期的に点検し、組織的、計画的に授業及び学習指導等の改善を実施しながら、生徒の学力向上に取り組んだ。 (物理) ① 1、2年生では年間【10】回以上の実験・観察を行った。3年生では、理系大学への進学を念頭に、物理学の理論を踏まえた授業を行った。 ② 単元ごとの小テストを実施し、必要に応じて個別指導を行った。定期考査では、大学入試問題を取り入れて応用力を高めた。 ③ 3年次の11月までに教科書を終え、【10】回程度大学入試共通テスト対策の問題演習・解説を行った。 (化学) ① 単元ごとに小テストを行うことにより学習内容を定着させるとともに化学的な見方、考え方を育てた。年間に実験を【10】回以上行い、自然科学に対する興味・関心を高めた。 ② 3年生では、大学入試共通テスト対策の演習を【10】回以上行った。さらに、個別学力試験に対応した演習を行い、得点力のアップを目指した。大学入試共通テストでは、全国平均点プラス【10】%以上の校内平均点を達成した。 (生物) ① 年間に実験観察を「生物基礎」は【5】回以上、「生物」(2年・3年)および「研究生物」は【10】回以上行った。 ② 大学入試共通テスト講習を【5】回【2】セット行い、大学入試共通テスト対策問題集を【3】冊以上仕上げた。また、実験や観察、映像教材、新聞、雑誌などの情報源を利用して、生徒にレポート課題を年【2】回以上提出させた。 <保健体育> ① 各種目において、個人・グループで目標を設定し、課題を見つけ解決する態度の育成を行った。教科会(年10回以上)等でそれぞれの目標の妥当性や課題の達成度を評価し、改善を実施した。 ④ 相互授業参観については、それぞれの専門種目の指導法など常に見て学ぶことができるようにした。 ⑧ 1年次の授業において、2回グループでの調べ学習から発表を行った。調べ学習で図書館を使用して図書館の使用方法やルールを同時に学ばせた。

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	(前ページ続き)		<英語> ①(4) 共通テスト得点8割以上の得点者は 110人であった。1・2年次での学習を基に、3年次には年間【10】回以上の大学入学共通テスト演習と【5】回以上の実力テストを実施し、共通テストに対応できる力を養った。 ② 定期考査得点率の傾向や、学力達成度の状況を科全体で情報共有し、授業に反映させた。各科目の授業内で年間【15】回以上の語彙または文法の小テストを実施し、生徒の学力達成度を把握した。 《教務》 ⑩ デジタルを活用した教育の充実のため、生徒一人1台端末の授業での利活用を促進した。また、感染症拡大のみでなく災害等の非常時においても、教員・生徒双方がオンライン学習を円滑に実施し学びを継続できるよう6月に「オンライン学習デー」を実施した。 《生活指導》 ④生活指導のあり方や行事について、主担当・副担当制によって業務の分担と共通理解を図り、次年度以降を見据えた運営を進めることができた。 ⑦委員会活動や部活動における生徒の様子などの情報を共有し、生徒理解を深め、体罰や不適切な指導を防止する体制を整えることができた。 《進路指導》 ⑩ 生徒及び保護者との連絡ツールとしてのClassiの管理を行うだけでなく、デジタルコンテンツを活用し学習活動の充実も図れるように各教科へ利活用の方法を提案した。 《1学次》 将来、様々な分野でリーダーとして活躍できる資質（知・情・意）を兼ね備えた生徒を育成するべく、高い目標へ挑戦するよう継続的に指導を行った。 《2学次》 SSH指定校1期生として、積極的に探究活動を行い、3年次の「個人探究」につながる良い流れを作ることができた。特に「理数探究」は【90】名の生徒が履修し、各々が自信をもって自分の

	主な取組	評価	取組状況と数値結果
学 校 経 営 ・ 組 織 体 制	(前ページ続き)		研究を発表することができている。 《3学次》 「総合的探究の時間」では「個人探究」を実施し、生徒各自が4,000字の論文を作成した。本校教員全員と連携を図り、生徒各自の論文作成を指導した。 《学校全体》 ④ 相互授業参観週間を年に3回、学期に1回設定することにより、相互の授業力向上を図った。見学シートを活用し、授業に関するフィードバックを行った。 ⑤ 超過勤務の時間を減少させるため、会議、委員会の開催を厳選し、時間進行管理を行った。月当たりの平均超過勤務時間を30時間以内とするよう働きかけた。また、長期休業日等に閉庁日又は閉庁時間等を設定し、夏季休暇等の取得を促した。 ⑥ 企画調整会議や職員会議、TAIMS メール等を活用し連絡事項の徹底や業務内容を周知し事務処理の効率化を図った。 ⑦ 保有個人情報等取扱基準に基づき、適正な管理を心がけるよう、機会がある度に全体に周知した。また、人権尊重の視点に立った教育活動を推進し、体罰及び不適切な指導等を行わない環境を作るため、サービス事故防止研修を学期に1回以上実施し、サービスの厳正に努めた。 ⑧ 教科と連携し、継続した読書指導を行った。年間20回以上の授業利用を目指して働きかけを行った。探究的な学習活動に必要な幅広い資料の収集及び提供を行った。また、館内展示、読書ナビなどを充実させることで、生徒の図書館利用を促進した。 ⑨ 平常時から非常時を想定し、出勤できない教職員の割合に応じた業務の精選と役割分担・応援体制を整備した。基本的な感染症対策を徹底し、生徒の安全を最優先にした上で、教育活動を実施した。 ⑩ デジタル技術を活用した教育の推進を図るため、ICT 環境の利活用として、Microsoft office365 やClassi 等を活用し、オンライン学習を含めた生徒の学習活動の支援の充実を図った。